お祈りしよう

2024/3/17

　かつて私の妻だった女性は、とても面白い人でした。何がと言われても困るのですが・・・・たとえば、物凄く自分勝手な祈りを平気でする人でした。私がタイに出張していた時のことです。猛烈な台風が長崎県北部を直撃しそうだというニュースが、向こうのテレビでも盛んに流されていました。タイやシンガポールの友人たちが、盛んに心配してお祈りしてくださっていましたが、我が家でも残されていた妻が真剣に祈っていたそうです。「神様どうかこの台風の進路をずらして下さい。」

　彼女はこの祈りがどんなに身勝手な祈りであったか、気付いていなかったようです。でも台風は少し南に針路を変え、熊本の方へ行ってしまったと、帰国した私に話してくれました。「彼女は風が吹けば桶屋が儲かる」などという言葉の意味を、決して理解しないでしょう。今流に言うと、「アマゾンの蝶が小さく羽ばたいたために、ワシントンにハリケーンが吹き荒れた」ですね。

　「それでね。心配した台風はそれて、どこかに行ってしまうし、日曜日には長澤先生（長澤忠雄牧師。長澤聖志牧師ではありません。）が来て下さって、とても素敵な礼拝会を持てましたよ」と報告する彼女に、「そりゃ、長澤先生はおしゃれで、ダンディだからね」と、旅行鞄から洗面具を引っ張り出しながら、答えたものです。実はこの時すでに、牧師は、長澤先生と電話で話していて、長崎から逸れて熊本を襲った台風のために、子どもの遠足用のテント・シートを片付けていた長澤先生が、10メートルほども吹き飛ばされて、ろっ骨を折る怪我をしていたのを知っていました。でもそんな素振りは少しも見せず、痛みを抑えて佐世保まで車で来て、説教をして下さっていたのです。「さすがに、わたしの尊敬する牧師のことだ」と思ったものです。

　天真爛漫な女の子のような人だったかつての私の妻は、そんなことはまったく知らず、少しも悪びれずに、「台風が佐世保を直撃するって聞いていましたから、神様どうか台風がどこかに行くようにしてくださいと、祈っていたんです」と、長澤先生にもお話ししたそうです。長澤先生は、「そんなところが、陽子さんのいいところだから」と、「申し訳ないことです」と受話器（スマホの無い時代）を握って頭を下げる私に、朗らかに応えてくださいました。

　せめて、「台風の進路を変えてください」ではなく、「台風の被害を失くしてください」と、祈ることはできなかったのかと、牧師としては思ったのですが・・・・・・。でも、それでもよかったのです。神様は賢い祈りだからといって、聞いて下さるわけではありません。間違った祈り、賢くない祈りでも、その祈りの言葉にではなく、その祈りの真意にお応えくださるのですから。

　もしも、神様が長澤先生の祈りを、その言葉通りに聴いて、その言葉通りにお応えくださっていたなら、「愛子オーッ。愛しているよー！」と、教区の牧師たちがみな集まる中で、誰はばかることなく大声で呼んでは、「マッ！　またあんなことを臆面もなく！」と小さくつぶやきながら、まんざらでもなさそうな様子の、奥様

の姿を観ることはなかったことでしょう。ましてやモンゴルに宣教師として行かれた、ご子息の牧人先生も生まれてくることはなかったのです。私は「愛子オーッ！　愛しているよォーッ」という長澤先生の呼び声に、「愛子。有難う！　　僕はもう少し頑張るよっ！　お前も、つらいだろうけれど、もう少し僕と頑張ってくれよ」という、聞こえない本音を聞くたびに、「神様が、若いころの先生の祈りを却下してくださって、本当に良かった」と思ったものです。そして、時に、はそれをわざとみんなに聞こえるように、大声で言って冷やかしたものです。すると長澤先生は、臆面もなく「そうだねェー」と笑っていました。長澤先生は若い時から、とても体の弱かった奥様をずっと気遣い、大変苦労をしながら奥様を守ってって来られたのです。

　長澤先生が若いころ、心に描いていた女性も数年前に召されて行きました。奥様の愛子先生も召されて行きました。今、長澤先生は召された先で、愛子先生にも、もうお会いになったことでしょうか。もしかすると、「あちらの世界におりました時は、随分ご迷惑をおかけしました」と、お詫びなさっておられるやも知れません。

　祈りはお願いではありません。お願いも含めた、神様との心の交流なのです。神様は、信頼してくる人間の、信頼を喜んでくださるのです。温かい心のつながりを大切にしてくださるのです。初めの内こそ、私たちは神様を、無制限に無利子・催促なしで、お金を貸してくれる都合の良い銀行の様に見立て、勝手なお願いっばかりをぶっつけるお祈りをするかもしれません。それでも良いのです。そこから始めて、神様と親しく仲良くなり、信頼を深め、豊かな交わりへと進んで行くのが大切なのです。それを神様も望んでおられるのですから、あれこれと他人のお祈りにも、自分の祈りにも、難癖をつけるのはやめにしましょう。

　神様は私たちの祈りに耳を傾けてくださいます。幼い祈りにも、拙い祈りにも、自分勝手な祈りにも、わがままな祈りにも、見境なしの祈りにも、うるさいと退けずに、忍耐深く耳を傾けてくださいます。そしてその祈りの真意を理解し、その真意に最も良くお答えくださるのです。祈る私たちの真意を、「私たちが理解せず、また、何が本当に良いことなのかもわからないまま祈る私たちに、最善に応えてくださるのです。それによって、あなたなお信仰も強められて行くのです。さあ！　お祈りをしましょう！

　私たちが真に成長したクリスチャンになると、自分のために生きる生き方から、神様のために生きる、そして他の人の幸せのために、生きようとするようになります。これは聖書の教えでもありますが、聖書以前に、人間が創造された時に神から与えられた人間性、つまり、神様に似せて造られた性質を、自然に発揮することでもあるのです。聖書の教えは、その人間性の発揮を誘発し、押し出し、強めるものです。ですから、クリスチャン以外でも、見えない大きな存在を感じ、生かされていることに感謝をし、自分の命を他の人の幸せのために用いようという人は、たくさんいます。聖書とはほとんど関係の無い、異邦人の社会生活を送っている日本人の中にも、そのような人達はとても多く、日本の社会を世界で秀でたものにしています。クリスチャンの成長は、そのような人間性を、単に自分の人間性を自分の力によって活かすのではなく、その人間性の源である天地創造の神様からの、新鮮な力をいただいて、生かすことにあるのです。